

## ジャガイモ栽培におけるマルチング設置及び仕立て本数による収穫量・管理状況の考察

メンバー：青山道子、池内則行、佐伯直彦、武本昭夫、佃 長次、増田高子、美濃敬子

### 1. テーマ選定

ジャガイモ栽培におけるマルチング設置方法の違いや芽かき後の仕立て本数の違いによる収穫個数・重量及び管理状況を調査した。また、収穫後に通常保存・冷蔵保存することによる糖度の変化も調べた。

### 2. 栽培方法

ジャガイモはインカのめざめとキタアカリの2品種とし、種イモは50g程度の丸イモを使用した。マルチング設置方法は、A：マルチングなし、B：発芽後マルチング、C：種イモ植付け後マルチングの3ケース。仕立て本数は、1本仕立て、2本仕立て、3本仕立ての3ケース。それぞれのケース毎に5株ずつ栽培するため、2品種×45個の種イモを3月14日に植え付けた。3か月後の6月13・14日に収穫し、イモの個数・重量を測定した。5月上旬からウイルスによるモザイク病が発生し、途中で13株撤去したが、発芽なしの3株も除き、インカのめざめ38株384個22kg、キタアカリ36株507個46kgを収穫した。

### 3. 考察

- ①マルチング設置方法の違いによる収穫量については、両品種ともに収穫個数の差はあまり見られないが、イモの収穫重量については、Aマルチングなし<B発芽後マルチング<C植付け後マルチングの順に増加しており、種イモ植付け後マルチングする方法が最良である。
  - ②仕立て本数の違いによる収穫量については、標準的なイモサイズの収穫を増やすためには、両品種ともに2本仕立てまたは3本仕立てが良好な結果である。
  - ③管理面においては、マルチングを設置しない場合は、雑草を取り除くとともに株元に土寄せする必要があるが、降雨による跳ね返り土が病気の発生に影響すると考えられた。マルチング設置は非常に有効な栽培方法であることがわかった。
  - ④糖度については、インカのめざめはキタアカリより約2倍の糖度があり、平均6.0であった。さらに1か月の通常保存により6.5となり、1か月の冷蔵保存により8.5となった。ジャガイモに含まれるデンプンは保存により分解され糖分が増え、保存温度が低いほど糖分への変化が大きいことが確認できた。
- (写真の左畝：キタアカリ、右畝：インカのめざめ)



A：マルチングなし



B：発芽後マルチング



C：植付け後マルチング